

保健体育部会

研究主題 「評価を生かした学習指導の工夫・改善と教科研修の充実」

研究の概要

平成15年度より、高等学校の新しい学習指導要領が学年進行により実施され、「目標に準拠した評価：観点別学習状況の評価」が実施されている。

また、平成16年度から全都立高等学校で、「生徒による授業評価」が実施されるとともに、その評価結果を「校内研修」で検討し授業改善を図る取組がスタートした。

昨年度の部会では、生徒による授業評価を生かした授業改善の具体的な実施方法等を中心に研究開発した。本年度は、個に応じた指導の一層の充実を図るため、観点別学習状況の評価と生徒による授業評価の評価結果を分析することで、どのような学習指導の工夫・改善を図ることができるのかについて視点をあて研究を進めてきた。

具体的な研究内容は、単元における指導計画と評価規準及び評価方法を示した「指導と評価の計画」を作成した。生徒の学習の実現状況を教員がよりの確に把握し、学習指導の工夫・改善に生かせるよう「評価規準」と「生徒の自己評価項目」に関連を図った。評価した結果を教員がどのようにとらえ、次の学習指導の工夫・改善を図ったのか、その経緯が分かるような研究内容とした。さらに、授業改善を組織的に推進していくため、保健体育科における研修の在り方について研究し「教科研修の年間計画」のモデル案と授業を参観して活発に意見交換ができるよう「授業コメントシート」を作成した。

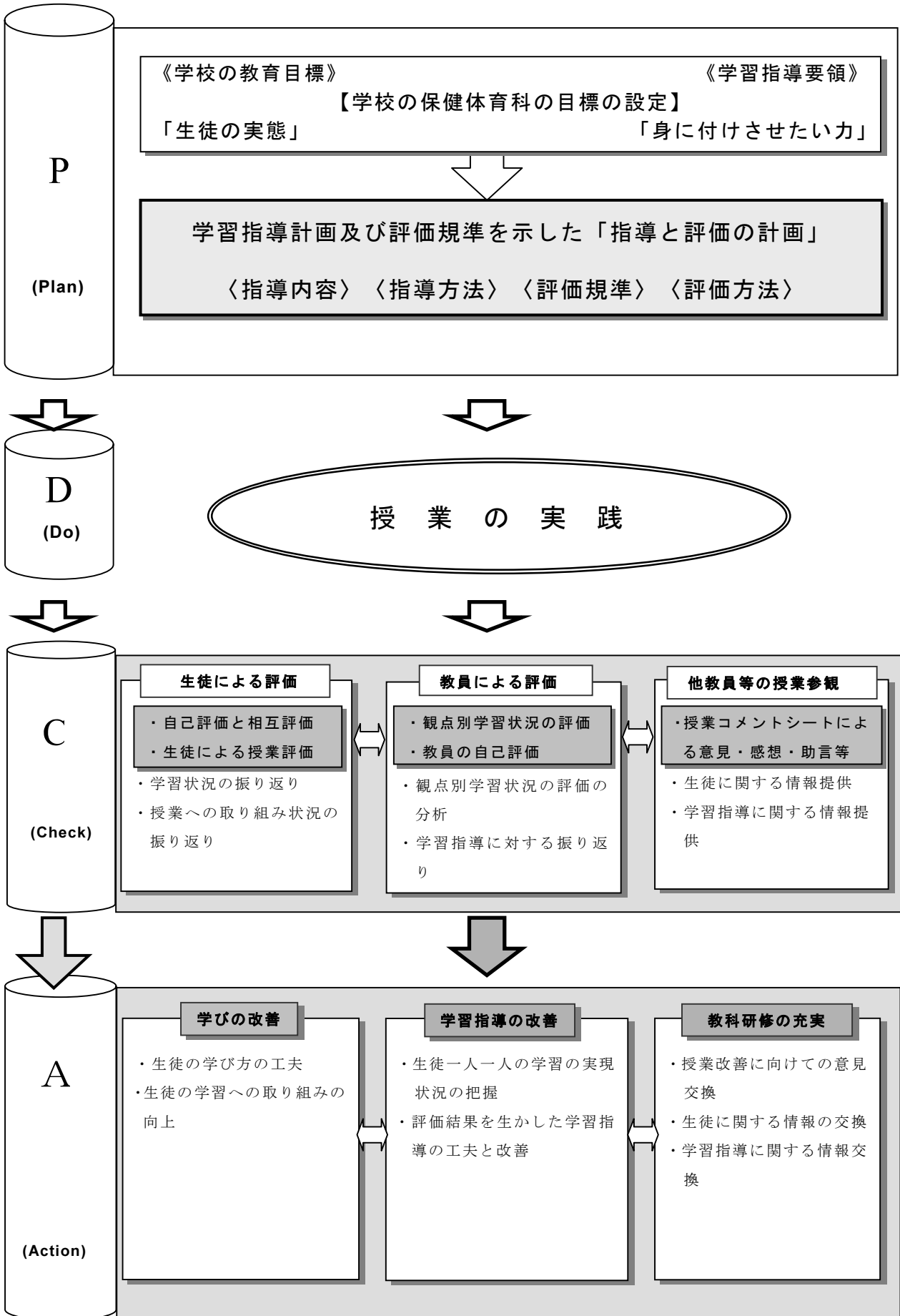
I 研究の目的

- 1 観点別学習状況の評価と生徒による授業評価の評価方法を取り込んだ「指導と評価の計画」を示すことで評価活動の推進を図る。
- 2 観点別学習状況の評価や生徒による授業評価を踏まえた学習指導の工夫・改善の具体例を示すことで個に応じた指導の一層の充実を図る。
- 3 多面的に授業改善を行うことができるような教科研修の具体例を示すことで、教科研修の活性化を図る。

II 研究の方法

- 1 評価を踏まえた学習指導の工夫・改善の具体化を図るために、武道領域から柔道を例にして、評価を「いつ、だれが、どのように行うのか。」を示した「指導と評価の計画」を作成するとともに、観点別学習状況の評価の結果を補助簿に蓄積した。
- 2 観点別学習状況の評価規準と生徒の自己評価項目に関連をもたせ、生徒の学習の実現状況をより把握しやすいように工夫した。生徒の自己評価の結果を参考とすることで、個に応じた学習指導の工夫や改善点を見いだすこととした。
- 3 研究開発委員の学校の校内研修と部会の月例会を連携して実施するとともに、授業改善を中心とした教科研修の年間計画の具体例を検討した。
また、他の教員が授業を参観した際に、授業についての意見等を記入し、授業者にフィードバックできる資料（授業コメントシート）を作成することとした。

〈研究の流れ〉



Ⅲ 研究の内容

1 単元における指導と評価の計画

単元名		柔道		実施学年	2年生 男子 (40名)		実施時期	9月～11月	
単元 の 目 標	ア	自己の能力に応じて立ち技の技能を高め、自己の得意技を発見し、相手の動きに対応した攻防を競い合う楽しさを味わう練習や試合ができる。							
	イ	柔道のもつ伝統的な考え方を理解し相手を尊重しながら、公平に練習や試合をすることができる。							
	ウ	自己の能力に応じた技を習得する喜びを味わうために、計画的な練習の方法を理解し、工夫することができる。							
	エ	周囲の安全に配慮しながら、練習や試合を行うことができる。							
学習 過程	時間	段階	学習内容・活動	観点	学習活動における評価規準 「おおむね満足できると判断される状況」		評価方法 ○生徒 ◎生徒と教師 ●教師 〈努力を要する生徒への手立て〉		
学習 Ⅰ	1	導 入	「オリエンテーション」 ・単元の目標を知る ・単元の目標に必要な柔道の特性及び伝統的な行動の仕方を知る。 ・1学期の復習「受け身」	知	① 自分力を最大限に発揮し努力する姿勢や練習する仲間を尊重し共に向上していこうという精神について言ったり、書き出したりしている。 (知識・理解)	◎学習カードの記入 ●生徒への問いかけ、発言分析等 〈学習カードへの返答を用いて、特性の徹底を図る。〉			
			2～4 展 開	・投げ技の習得のために多様な練習を展開していく。 ○技の一斉指導 ○かかり練習(グループ) ○約束練習(グループ) ○自由練習(グループ) ・グループ練習は、体重別に4つのグループに分かれて行う。 ・かかり練習では正しい動きに注意して技を習得する。 ・約束練習では、相手の安全を配慮しながら正確な動作を身に付ける。 ・自由練習では、相手との対人動作を考えながら、自分の技を仕掛ける。	関	① 練習で安全を確かめ、仲間と協力して教え合おうとする。 (関心・意欲・態度)	◎学習カードの記入 ●観察による補助簿への記入 〈授業中の観察で努力を要する段階にある生徒に対して、声かけを行いグループ活動へスムーズに入れるように支援する。〉		
					思・技	① 自分にあった技を選び、得意技として身に付けるための課題を設定し、課題解決に適した練習方法を選択している。(思考・判断) ① 自分の能力に応じて正確な動作で、練習を行うことができる。 (運動の技能)	◎学習カードの記入 ●観察による補助簿への記入 ●生徒への問いかけ、発言分析等 〈(思)個人カードを活用して各個人への課題設定を提示する。 (技)動きのできていない生徒に関しては観察の段階で個別に指導を行う。〉		
			5	・投げ技の練習(一斉指導) ・復習 ・スキルテスト 生徒による授業評価1	関・技	① 練習で安全を確かめ、仲間と協力して教え合おうとする。 (関心・意欲・態度) ② 約束練習の中で、身に付けた技で正確な動作で投げることができる。 (運動の技能)	◎学習カードの記入 ●観察による補助簿への記入 ●生徒への問いかけ、発言分析等 〈(思)個人カードを活用して各個人への課題設定を提示する。 (知)学習カードへの返答によって行う。次回の授業で基本動作に関して個別に復習をする。〉		
学習 Ⅱ ねらい 2	6～8 展 開	・投げ技の技能を深めていく。得意技や技の連絡変化など、実践に近い形での練習を行う。さらに実践形式での自由練習や簡易試合を行う。 ・技の連絡変化の練習では、自分の得意技の持っている特性を理解し、技の成功するパターンを見付ける。 ・かかり練習では、正しい動きと、タイミングを注意しながら技を習得する。 ・約束練習では、どのような間合いや崩し、タイミングが、自分の技にとってよいかを考えながら行う。 ・自由練習では、自分の得意技を出しながら、技の成功するパターンを習得する。	関	② 自分の能力に応じた技を習得する喜びや、相手の動きや技に対応した攻防を展開して競い合う柔道の楽しさを味わおうとする。 (関心・意欲・態度)	◎学習カードの記入 ●観察による補助簿への記入 〈学習ガードを用いて、個々の課題に対して返答する。〉				
			思・知	② 試合や練習で、身に付けた得意技をかける機会を見付けている。 (思考・判断) ③ 崩しや間合いなど、対人的技能の構造について言ったり、書き出したりしている。 (知識・理解)	◎学習カードの記入 ●生徒への問いかけ、発言分析等 〈(思)試合や練習の合間に、個別に指導を行う。また、学習カードに技の連絡変化等の提示を行う。 (知)次回の授業の冒頭で、対人技能に関する説明を行う。〉				
			思	② 試合や練習で、身に付けた得意技をかける機会を見付けている。 (思考・判断)	◎学習カードの記入 ●観察による補助簿への記入 〈個人カードへの返答の中で、各個人への課題設定を提示する。〉				
ま と め	9 ま と め	・試合 体重別のグループに分かれ、試合を行う。各グループが協力して、リーグ戦を行う。	関・知	③ 用具や服装、練習場などの安全を確かめたり、禁じ技を用いないなど、自他の安全に留意しようとする。 (関心・意欲・態度) ④ 礼儀作法、ルールについて言ったり、書き出したりしている。 (知識・理解)	◎学習カードの記入 ●観察による補助簿への記入 〈(関)安全に関することは、即時に指導を行う。必要であれば、全体に対して指導を行う。 (知)学習カードの返答において、必要な知識に関して質問を行う。〉				
		・試合 グループをつくり団体戦を行う。各試合とも勝ち抜き戦で行う。 生徒による授業評価2	関・技	④ 審判の判定や指示に従うとともに、勝敗や結果を受け入れたり、礼儀作法を重視しようとする。 (関心・意欲・態度) ③ 身に付けた得意技を、試合や練習の中でかけることができる。 (運動の技能)	◎学習カードの記入 ●観察による補助簿への記入 〈(関)個別に授業内で指導を行う。 (技)技の連絡変化やタイミングなどの提示を行う。〉				
●十分満足できると判断される生徒に対する評価の方法 おおむね満足できると判断した生徒のうち、質的な高まりや深まりをもっていると判断した生徒を十分満足できる段階とした。具体的には自ら主体的に活動するとともに、仲間を支えたり、教えたりしている、ということを見て取ることでできた生徒を十分満足できる段階と評価した。									

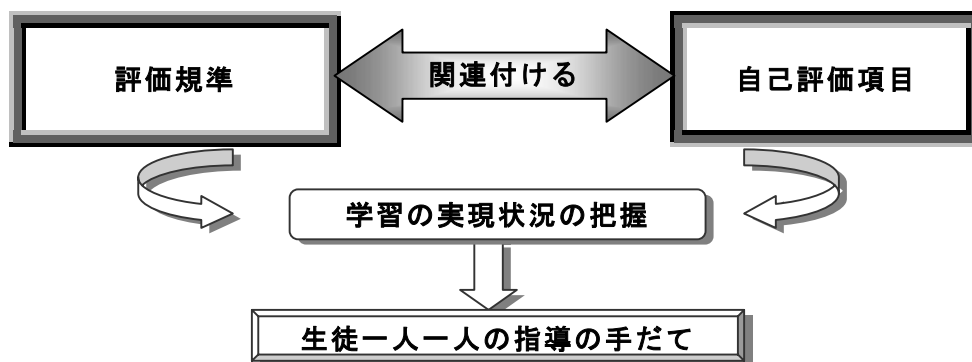
2 評価結果を生かした学習指導の工夫と改善

(1) 観点別学習状況の評価規準と生徒の自己評価項目との関連を図る

観点別学習状況の評価の「評価規準」から「生徒の自己評価項目」を作成することで、生徒の学習の実現状況を的確に把握できると考えた。

「生徒の自己評価項目」の文言については、生徒が具体的な行動をイメージできるように工夫し、学習の実現状況を「A（十分満足できる状況）・B（おおむね満足できる状況）・C（努力を要する状況）」の3段階として選択肢を作成した。

自己評価の方法は、毎時間使用する学習カードに、その時間に教員が評価する観点の評価規準に関連させた「生徒の自己評価項目」を入れた。このことにより、生徒に自己の学習の実現状況を振り返らせるとともに、教員が生徒の学習の実現状況を把握するための情報とし、指導の手だてを考える際に活用した。



【評価規準と関連付けた生徒の自己評価項目の例】

観点	教員の評価		生徒の自己評価項目（学習カードの選択肢）		
	評価規準		A	B	C
関心 意欲 態度 ③	用具や服装、練習場などの安全を確かめたり、禁じ技を用いないなど、自他の安全に留意しようとする。		練習や試合で周囲の安全にも留意し、危険な場合には積極的に仲間にも声をかけた。	練習や試合で自分と相手の安全に留意した。	教員や仲間の支援により、練習や試合で自分と相手の安全に留意した。
思考 判断 ②	試合や練習で、身に付けた得意技をかける機会を見付けている。		試合や練習で身に付けた得意技をかける機会を自ら作り出すことができた。	試合や練習で身に付けた得意技をかける機会を見付けることができた。	試合や練習で教員や仲間の支援により身に付けた得意技をかける機会を見付けることができた。
運動 の技 能 ③	身に付けた得意技を、試合や練習の中でかけることができる。		試合や練習の中で身に付けた得意技をかけ、相手を投げることができた。	試合や練習の中で身に付けた得意技をかけることができた。	教員や仲間の支援によって、試合や練習の中で身に付けた得意技をかけることができた。
知識 理解 ③	崩しや間合いなど、対人的技能の構造について言ったり、書き出したりしている。		技をかけるときの崩しや間合いなどの対人技能の構造について正確に理解し、仲間に説明することができる。	技をかけるときの崩しや間合いなどの対人技能についてほぼ正確に理解している。	技をかけるときには崩しや間合いなどの対人技能が必要とされることは知っている。

(2) 観点別学習状況の評価を踏まえた指導の手立て

ア 「努力を要すると判断される」状況にある生徒に対する具体的な指導内容について、単元計画作成の段階で指導の手だてを作成し単元途中の指導に活用した。

イ 評価結果を分析し、授業の課題や生徒の学習の実現状況等を、①授業の展開に関するもの、②観点別学習状況の評価に関するもの、③自己評価に関するものに分類して明らかにした。そして、それぞれの課題について改善策を立て、次の時間において工夫・改善を行った。

◆第2回授業の分析 (Check)			◆次の授業への改善点 (Action)	
① 授業の展開に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・2種類の投げ技の練習を予定していたが、1種類で終了してしまっただ。 ・グループ学習の際に人数が奇数のグループがあった。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・次回からの授業も1種類ずつの進行に変更する。 ・グループ内で、互いに協力し工夫して練習するよう指示する。 	
② 観点別学習状況の評価から明らかになったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に関する配慮に欠ける場面があった。 ・積極的なアドバイス活動が見られなかった。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に関する指導を全体にもう一度設定(全体指導)する。 ・グループ内でいろいろな相手と練習する場面を設定し、互いにアドバイスをさせた。人の動きを見るということに重きを置くように指導する。 	
③ 自己評価から明らかになったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・受け身に不安をもっている生徒が少数いた。 ・大腰に対して技術的な不安がある生徒が見受けられた。 ・投げることに對して「楽しさ」を感じる生徒が見受けられた。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・受け身に不安を抱えている生徒に對し、全体練習の際に声をかけ、個別に指導する。 ・大腰の復習の時間を長めにとり、反復することで技術の定着を図る。 ・約束練習を入れることで、実際に投げる練習時間を確保する。 	

◆第7回授業の分析 (Check)			◆次の授業への改善点 (Action)	
① 授業の展開に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・練習時間の確保が難しかった。 ・新しい事項の説明をする時間が少なかった。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動の中での練習時間を確保する。また、他グループの活動の際に仲間と相談しながら活動させる場を設定する。 ・学習カードにコメントを記入して生徒の個々の質問に對する。 	
② 観点別学習状況の評価から明らかになったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・崩し方や間合いに對しての理解が不十分な生徒が多い。 ・得意技の習得に至っていない生徒が少数いた。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・崩し方、間合い、さばきが理解できるような練習を取り入れる。 ・積極的に声かけを行いながら、仲間との活動の中で気付かせる。 	
③ 自己評価から明らかになったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・間合いの取り方で悩んでいる生徒が多くいた。 ・技が出せずに悩んでいる生徒が多くいた。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・崩し方、間合い、さばきが理解できるような練習を取り入れる。 ・投げられることを恐れずに、投げに行くことを指導する。 	

(3) 生徒による授業評価を踏まえた指導の手立て

生徒による授業評価は、単元のねらい1及びねらい2のそれぞれ最終授業時間に設定して実施した。ねらい1の授業が終了した段階で1回目の生徒による授業評価を実施し、その結果から授業の課題について授業評価の項目に基づき①姿勢に関すること、②指導方法に関すること、③授業内容に関することに分類して明らかにし、ねらい2への授業改善を行った。

◆生徒による授業評価1の分析 (Check)		◆ねらい2への改善点 (Action)	
①姿勢に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は、公平に接せられている感がないようである。 質問量の多さから、質問に対応しきれない場面があった。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードにコメントを書く。気が付いた点への声かけを積極的に行う。 説明が周知徹底するような環境や説明時に動きを入れるなどの分かる説明を工夫する。
②指導方法に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が個に応じた課題を感じていない、又は分からない。 授業を進めるスピードの感じ方に格差が生じている。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを使用して生徒一人一人に明確な課題を提示する。 時間配分を工夫し、個別対応ができる時間を確保できるようにする。
③授業内容に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の授業やねらい、評価方法について理解していない状況が見られる。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間、拡大してねらいを掲示しているが確認していなかったため、授業前に確認する時間を設ける。

(4) 観点別学習状況の評価について

観点別学習状況の評価を毎時間に実施し、記録を補助簿に蓄積していった。補助簿は生徒の自己評価結果の情報も記録できるようにした。

ア 評価の方法

学習の実現状況を評価規準に照らして、A「十分満足できると判断される状況」、B「おおむね満足できると判断される状況」、C「努力を要すると判断される状況」の3段階（以下、A・B・Cという）で評価を行い、各時間の評価結果を補助簿に記録した。同時に、生徒の自己評価の情報も記録した。

イ 総括の方法

各時間記録した評価結果を、4つの観点別に総括する。「A」と「C」が同時にある場合には「BB」と読み替えた後、「A」が過半数であれば「A」、「C」が過半数であれば「C」、それ以外は「B」と総括した。

例) 「AAABB」→「A」、「BBCCC」→「C」、「CAABB」→「B」

【補助簿の例】

氏名	評価の観点		授業時間										総括
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
生徒1	観点別評価	関心・意欲・態度		A			A	B			B	A	A
		思考・判断			B	A			B	B			B
		運動の技能			A	A						A	A
		知識・理解	A			A			B		A		A
	自己評価	関心・意欲・態度		B			A	B			A	A	A
		思考・判断			B	A			A	B			B
		運動の技能			B		A					A	A
		知識・理解	B			A			B		B		B
生徒2	観点別評価	関心・意欲・態度		B			B	C			B	B	B
		思考・判断			A	B			C	B			B
		運動の技能			B		C					B	B
		知識・理解	A			B			B		B		B
	自己評価	関心・意欲・態度		A			B	B			B	A	B
		思考・判断			A	C			C	B			B
		運動の技能			B		C					B	B
		知識・理解	A			B			C		C		B

【学習カード（3時間目）の例】

学習個人カード 2年男子 単元名【柔道】 No. 3

クラス： _____ 氏名： _____

_____月 _____日 _____曜日 _____時間目

【今日の学習活動を確認しよう】

時間	学習活動
1時間目	① オリエンテーション・・・単元の目標・柔道の特性、伝統的な行動の仕方を知る ② 1学期の復習「受け身」
2時間目	投げ技の練習・・・大腰・払い腰 / かかり練習 / 約束練習
3時間目	投げ技の練習・・・大外刈り・大内刈り / かかり練習 / 約束練習
4時間目	投げ技の練習・・・背負い投げ・小内刈り / 約束練習 / 自由練習
5時間目	投げ技の練習・・・復習 / スキルテスト（約束練習形式）
6時間目	技の連絡変化の練習 / かかり練習 / 約束練習 / 自由練習
7時間目	かかり練習 / 約束練習 / 自由練習
8時間目	自由練習 / かかり練習 / 約束練習 / 簡易試合（投げ技のみ）
9時間目	試合
10時間目	試合 / 授業のまとめ

本時（3時間目）

【本時の授業を振り返ろう】

大外刈りをかける時に気を付けることは

(1) () をしっかりと踏み込んで、() をしっかりと振り上げる。
 (2) 相手と() と密着させしっかりと() に崩す。
 (3) 上体で相手をあおりながら、相手の() を刈る。

【本時の取り組みを自己評価しよう】 *自分の取り組みに一番近い項目に○をつけよう！

思考判断	質問項目		○を記入
	A	B	
思考判断	A	自分の特性にあった技を見つけ、得意技として身に付けるための具体的な課題とそれを解決するための練習方法を見付けることができた。	
	B	自分の特性にあった技を見付け得意技として身に付けるための課題を見付けることができた。	
	C	先生や仲間の支援により、自分の特性にあった技を見付けることができた。	
運動技能	A	3つの要素（引きつけ・踏み込み・足の振り上げ）のすべてを満たし、スムーズにかつ、リズムの良い動きでかかり練習を行うことができた。	
	B	3つの要素（引きつけ・踏み込み・足の振り上げ）のすべてを満たしてかかり練習を行うことができた。	
	C	3つの要素（引きつけ・踏み込み・足の振り上げ）のうち、1つ又は2つの要素を満たしてかかり練習を行うことができた。	

感想など

教員からのコメント

【生徒による授業評価1アンケート（5時間目）の例】

柔道 授業 評価 アンケート

このアンケートは、授業担当者が生徒諸君とともに授業をよりよくしていくことを目指して実施するものです。回答内容があなたの成績評価に影響することは全くありませんので、厳正かつ正直に行うよう協力してください。自由意見は積極的に記入してください。

◆ 自己評価・・・授業に対するあなた自身の取り組みについて

観 点	項 目	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	全く思わない	
1	関心	運動を楽しむことができた。	4	3	2	1
2	意欲	仲間と協力して活動することができた。	4	3	2	1
3	態度	自他の安全に留意して活動できた。	4	3	2	1
4	思考	自分の課題を発見することができた。	4	3	2	1
5	判断	課題の解決に向けて練習を工夫することができた。	4	3	2	1
6	技能	学習した技ができるようになった。	4	3	2	1
7	知識	武道の伝統的な行動の仕方を理解できた。	4	3	2	1
8	理解	柔道の基本動作を理解できた。	4	3	2	1

◆ 授業評価・・・授業に対する評価

観 点	項 目	そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	全く思わない	
1	姿 勢	生徒に公正に接していますか。	4	3	2	1
		生徒の安全に注意して授業をしていますか。	4	3	2	1
		生徒の質問に誠意をもって答えていますか。	4	3	2	1
4	指 導 方 法	適切なアドバイスや言葉かけがありますか。	4	3	2	1
		授業の進め方やスピードは適切ですか。	4	3	2	1
6	個 人	個に応じた課題が設定されていますか。	4	3	2	1
		興味や関心のもてる内容の授業ですか。	4	3	2	1
8	授 業 内 容	運動量は適当ですか。	4	3	2	1
		毎時間の授業のねらいや目標が示されていますか。	4	3	2	1
10	評価方法について説明されていますか。	4	3	2	1	

☆ 自由意見・・・授業で良かったところ・改善して欲しい点などを記入してください。

年 組 番 氏 名

3 教科研修の充実

校内研修は、その学校がもつ課題の解決につながる内容を取り扱いながら、教員の指導力や課題解決力を育成できる研修である。校内研修には学校全体で行う研修や教科で行う研修、課題別に行う研修等があり、それぞれを連携させ計画・実施することが重要である。

また、これまでの授業改善は個々の教員の努力に任されていた面が少なからずあった。これからは、他の教員とともに組織的に校内研修を行い、授業改善を図っていく取組が一層重視されている。

本研究では、保健体育科での研修としての教科研修に着目し、生徒による授業評価を活用した授業改善を中心に年間研修計画を学校全体の校内研修と関連付けて作成した。

(1) 教科研修の年間計画を作成する上での配慮事項

- ア 時期や単元を考えて計画する。
- イ 単元で行う生徒による授業評価と教員相互の授業参観によるコメントを活用する。
- ウ 全校で実施される「生徒による授業評価」等の校内研修との連携を図る。

(2) 年間研修計画の例

期	教 科 研 修	校 内 研 修
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・研修テーマや計画の検討（4月） ・スポーツテスト結果分析—特に配慮が必要な生徒への指導法（5月） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 授業改善—2年女子マット運動 生徒による授業評価と授業コメントシートを用いた授業参観（6月） </div> <ul style="list-style-type: none"> ・バタフライの指導方法（7月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修テーマや計画の検討（4月） ・第1回の生徒による授業評価実施（6月） ・生徒による授業評価（全授業）の分析による課題把握（7月）
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中研修の報告（9月） <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 改善点（例）練習方法を拡大して掲示等 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 授業改善—2年女子バドミントン 生徒による授業評価と授業コメントシートを用いた授業参観（10月） </div> <ul style="list-style-type: none"> ・バドミンントンの指導方法（11月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決の方法検討（9月） ・第2回の生徒による授業評価実施（10月） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 教科研修報告 保健体育科の授業改善（10月） </div> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価（全授業）の分析による課題把握（12月）
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道の投げ技の指導方法（1月） <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 改善点（例）学習カードの工夫等 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 授業改善—1年男子柔道、女子ダンス 生徒による授業評価と授業コメントシートを用いた授業参観（2月） </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教科研修まとめ（3月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決の方法検討（1月） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 教科研修報告 保健体育科の授業改善（2月） </div> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修のまとめ（3月）

(3) 授業コメントシートの活用

本部会では、生徒による授業評価に加え、教員相互のアドバイスを活用することで、教科研修や校内研修での意見交換の活性化を図ることができると考えた。そこで、授業を参観した教員が、授業についてのコメントを記入する「授業コメントシート」を作成した。

授業コメントシートは、授業を見ていく流れを重視し具体的で無理なく記入できるよう、「授業開始時、展開時、まとめ時」と時系列で観点を設定した。

このシートを活用し「批判するのではなく、共に考え・工夫する」という視点で意見交換等を行うことで、授業について様々な意見を出すことができる。さらに、シートに記載された情報等を基にして授業者が授業を振り返ることで、授業改善を一層進めることができる。

(4) 教科研修で期待できる効果

- ア 個々の生徒の課題や教科の課題を把握することができる。
- イ 求められる生徒像や授業像について共通理解を図ることができる。
- ウ 意見交換や情報を共有化する機会が増える。
- エ 教員の経験や実践、得意分野等を生かすことができる。
- オ 研修したことを、すぐに授業に生かしたり生徒に返したりすることができる。

< 授業者に対しての授業コメントシート >

・ 以下の内容に該当する番号に○をつけて下さい。

- 4 よくできている
- 3 どちらかといえぼできている
- 2 どちらかといえぼできていない
- 1 できていない

< 授業開始時 >

- ① 授業場所・用具等、生徒が安全に活動できる環境が整っているか。
☆コメント () 4 3 2 1
- ② 生徒の健康観察や見学生徒の把握、クラスの雰囲気の確認等ができているか。
☆コメント () 4 3 2 1
- ③ 本時のねらいや流れを分かりやすく説明しているか。
☆コメント () 4 3 2 1

< 指導展開時 >

- ① 生徒が意欲的に授業に取り組むように指導の工夫をしていたか。
☆コメント () 4 3 2 1
- ② 生徒の課題に応じた指導の工夫ができていたか。
☆コメント () 4 3 2 1
- ③ 生徒の質問に対し、適切な示範や助言ができていたか。
☆コメント () 4 3 2 1
- ④ 生徒が安全に活動できるよう適切な指導ができていたか。
☆コメント () 4 3 2 1

< まとめ時 >

- ① 生徒が授業を振り返り、自己評価が適切に行えるように支援していたか。
☆コメント () 4 3 2 1
- ② 生徒が次回の授業の課題や見通しをもてるよう働きかけていたか。
☆コメント () 4 3 2 1
- ③ 生徒に十分な運動量が確保されていたか。
☆コメント () 4 3 2 1

自由記述欄

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 観点別学習状況の評価と生徒による授業評価を「いつ、だれが、どのように」実施するのかを示した「指導と評価の計画」作成するとともに、観点別学習状況の評価の具体的な実施方法を示すことができた。
- (2) 評価規準と自己評価項目を関連付けたことにより、教員が生徒の学習の実現状況を的確に把握することができた。また、生徒が自己の学習の実現状況を何ができて、何ができていないかを具体的に把握することができた。
- (3) 評価結果を分析することにより、生徒のつまづきや課題が明らかになり、次の授業への学習指導の工夫・改善を迅速にすることができた。
- (4) 学習カードに単元の授業内容を示すことにより、生徒が毎時間の授業のねらいを把握するとともに、単元全体を見通した主体的な活動を促進することができた。
- (5) 学習カードに教員のコメントを記入することにより生徒の疑問に答え、アドバイスを与えることで、生徒の一人一人にきめ細かな指導をすることができた。
- (6) 生徒による授業評価を活用した授業改善に重点を置いた教科研修の年間計画の具体例や授業コメントシートを作成したことで、保健体育科における研修の在り方や研修時の意見交換等を活発にするための具体例を示すことができた。

2 今後の課題

- (1) 観点別学習状況の評価の信頼性や客観性を高めるための研究を進め、評価規準や評価方法について検討を行うことが必要である。
- (2) 評価規準作成のために、特に運動の技能についての質的な高まりの具体例を各種目で検討し、作成していく必要がある。
- (3) 生徒による授業評価の評価項目については、教員と生徒が共に授業改善を図っていくという視点を大切にして、授業改善に結び付くような評価項目について更に研究を進める必要がある。
- (4) 校内研修については、各学校で組織的に取り組む中で教員が互いに学び合う場を創意工夫して実施していくことが期待される。